

高木正勝コンサート

【メンバープロフィール】

■高木正勝

映像作家／音楽家

1979年生まれ、京都出身、兵庫県在住。山深い谷間にて生活。

長く親しんでいるピアノを用いた音楽、世界を旅しながら撮影した”動く絵画”と評される映像、両方を手掛ける作家。

国内外でのCDやDVDリリース、美術館での展覧会や世界各地でのコンサート、映画やCM音楽など、分野に限定されない多様な活動を展開している。

2009年Newsweek日本版で、「世界が尊敬する日本人100人」の1人に選ばれるなど、世界的な注目を集めるアーティスト。

2012年、映画「おおかみこどもの雨と雪」、2013年スタジオジブリを描いた「夢と狂気の王国」の音楽を手掛ける。

また、「おおかみこどもの雨と雪」に続き、細田守監督2015年公開の最新作「バケモノの子」の音楽も手掛ける。

2013年、アフリカ開発会議(TICAD V)関連企画としてエチオピアを訪問・取材し、映像作品『うたがき』を発表した。

2015年秋、7人のミュージシャンとともに5年ぶりのホールワンマンコンサート“山咲み”を東京で開催。その模様をDVDと2枚のCDにまとめた『山咲み』を2016年に発表。

www.takagimasakatsu.com

■床 絵美

北海道出身。幼少の頃よりアイヌ民族の唄、舞踊や伝統楽器ムックリなどに慣れ親しみ、アイヌの伝承活動に関わる。

1997年、トンコリ奏者OKIらと共にMAREWREW(マレウレウ)のヴォーカリストとして参加する。1998年からアイヌ文化アドバイザーとして、全国各地にて、ムックリ、唄などのワークショップ、講演を行う。OKI アメリカ・ツアー、オーストラリア「WOMAD」、OKI フランス公演に参加。2007年に初のソロ自主制作CD「UPOPO ウポポ」を発表(プロデュース: 海沼武史)。

さらにトンコリ奏者・千葉伸彦とのデュオCD「HUNTER ハンター」を発表(プロデュース:海沼武史)。2008年TV・NHK BSハイビジョン番組「日本人の知らない日本へ/アイヌ・民族の誇りを歌に」出演。作曲家・海沼武史と「RIWKAKANT」結成。

1st album「RIWKAKANT」、2st album「Double fantasy」を発表。2012年に北海道へ移住。郷右近富貴子と共に

「Kapiw&Apappo/カピウ&アパッポ」結成、2016年にアルバムを発表した。またドキュメンタリー映画「kapiwとapappo～アイヌの姉妹の物語～」も順次上映中。

kapiw.jimdo.com

■熊澤洋子

東欧・バルカン地域を中心に、ヨーロッパ各地の民謡やダンス曲をとりあげて演奏するバイオリン奏者。4歳でバイオリンを手にしクラシックを学んだ後、学生時代にロマ(ジプシー)の音楽に出会う。その情熱と哀愁に心惹かれ、奏法の研究や演奏に取り組みロマ音楽やジプシー・スイングジャズをとりあげるユニット「しげとくま」を結成。2003年に最初のアルバム「しげとくまのロマのうた」をリリース。

その後ロマの音楽のルーツをたどる中で、より暮らしに近い、地域的な民謡やダンス曲に魅力を感じるようになり、舞台では東欧・バルカン地域に古くから受け継がれてきた音楽を好んでとりあげるようになった。2004年にルーマニア・ブルガリアでのフィールドワークを経て帰国後自身の名義でのトリオを結成、2008年に1stアルバム「恋のうたが きこえる」をリリース。2014年には、東欧周辺諸地域から、更に北欧にまで及ぶ広範囲のメロディーをとりあげた2ndアルバム「わたしをよぶこえ」をリリースしている。国内でほとんど知られていないメロディーを数多く集めたこれら意欲的作品は、様々な方面で高い評価を受けている。

2011年には中欧スロバキア・ブラティスラヴァにおけるヤン・スムレク国際文学祭への招聘(国際交流基金採択プログラム)を受け海外公演も行っている。2014年冬に京都北部の里山へ移住。日々、暮らしに近い音楽のあり方を探求している。

www.geocities.jp/gypsykuma/

■きしもとタロー

世界各地の様々な笛を演奏する、笛演奏家・製作家。作曲家でもあり弦楽器も演奏する。幅広い音楽活動の傍ら各地で講座を開講、近年は大学でも教鞭をとっている(人間科学・実践的文化交流論)。

12歳で南米アンデス山岳地域の音楽に出会い、写真をもとに竹笛を製作し始めた。2004年に初の作品集「ハルノヒ」、2006年に「ホシノウエデ」と作詞作曲作品集である「ヒライタ、ヒライタ」をリリース。「異国性と叙情性を併せ持った音楽」と評される作品群は、国内メディアではほぼ知られていないものの、1996年大阪室内楽フェスタでは唯一作曲作品による演奏でノミネートを受け、2000年にはオーストリア・ブルゲンラント州での公演、2003年にはウズベキスタンの古都サマルカンドにおける東洋音楽祭への招聘、2011年には中欧スロバキア・ブラティスラヴァにおけるヤン・スムレク国際文学祭への招聘(国際交流基金採択プログラム)等、国内外で高い評価を受けてきた。舞台や教室では、自ら学んできた世界各地の音楽をとりあげる一方、録音物は全て作曲作品のみで制作。使用する笛を一から開発・製作し演奏することを得意とし、場合によっては楽曲ごとに笛を製作する。2008年からは東欧音楽のユニットでギリシアの弦楽器の奏者としても活動、2013年冬には出版元として雲水舎を設立、「空のささやき、鳥のうた」を第一弾として、著述と音楽作品による新しい形の作品集を発表し始めた。

taro.co.jp

■佐藤直子

クラシック、現代邦楽、ジャズ、民族音楽、ポップス、シャンソンと様々なジャンルを経て、現在マルチパーカッショニストとして精力的に活動中。アーティストのライブサポートやレコーディング、舞台音楽、映画音楽、ドラマ、CM、ゲーム音楽等に数多く参加。

桐朋学園大学音楽学部卒業。同研究課程修了。高木正勝氏のコンサート「タイ・レイ・タイ・リオ」をはじめ国内外の公演にパーカッショニストとして参加。2009年、打楽器独奏によるアルバムsatonaoko「108」を制作。

satonaoko.cocolog-nifty.com